

神戸大学医学部附属病院

腫瘍・血液内科

指導担当医（役職）

長谷 善明（特定助教）

実習概要

概要

腫瘍・血液内科の主治医団の一員として4週間過ごします。オーダー（投薬）は行いませんが、それ以外は、初期研修医に準じた生活をイメージしてください。

固形グループまたは血液グループのいずれかの選択になります（各々2名ずつを上限として事前調整させていただきます）。

基本的に上級医1人について行動を共にしてもらいます。結果的に、学生1人当たり患者さんを2～3人担当することになります。回診、外来、検査/処置、治療計画立案、ICのすべての場面に立ち合います。

医療面接

担当患者を毎日診察します。

初診外来で問診を行います。

身体診察

担当患者を毎日診察します。特に、リンパ節腫大、腹部腫瘤などは自信を持って診察できるように指導します。それ以外の内科的診察手技に関しても、一通りできるようにトレーニングを行います。

シミュレーター（骨髄戦士セイケンジャー）も用いて指導します。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載を行います。指導医が記載内容をチェックし指導します。

症例プレゼンテーション

毎朝のグループカンファレンスで担当患者のプレゼンを行います。

毎週月曜日の入院カンファレンスで担当患者のプレゼンを行います。

その他（特色など）

血液スミア像を実例に即して行います。

さらに、CBCの読み方の勉強がしたいなどの個人の希望に応じます。

学生へのメッセージ

1) 固形グループも血液グループも、どちらも選択できます。いろいろな悪性腫瘍を診ることができ、様々な合併症や副作用の管理が必要なため、臓器横断的な診断・治療スキルが身に付きます。

2) 経験できる症例や手技（介助）：中心静脈カテーテル留置、骨髄穿刺、腰椎穿刺、胸水・腹水穿刺、副作用管理、Bad newsの伝え方、緩和ケア

3) がん治療の考え方、がん患者の診かた・接し方、CBCの読み方などは、将来何科に進むにしても役に立ちます。がん治療・血液診療に興味がある人だけでなく、苦手意識のある人も歓迎します。